

(様式1)

令和6・7・8年度「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」
学校改善プラン(2年次)【中学校】

【学校名等】

学校名	井手町立泉ヶ丘中学校							校長名	石浦 喜人
学 年	1 年	2 年	3 年				特別支援	生徒数	1 4 2 名
学級数	2	2	2				2		
事業担当教員名	前田 拓哉								
① 中学校区で目指す子ども像	「主体的に学び考える力」、「多様な人とつながる力」、「新たな価値を生み出す力」、「変化する社会を生き抜く力」これらの力を使い、より良い社会と幸福な人生を創り出せる子ども								
② 目指す子ども像	進んで学び、深く考える生徒（創造） 目標をもち、挑戦し続ける生徒（挑戦）								
③ 目指す子ども像に対する現状と課題	・与えられた課題に取り組むのは得意だが、自ら課題設定し、仮説を立ててその解決方法や手立てを考察することが苦手な生徒が多い。 ・分からない問題に対して、解決方法を探したり、試行錯誤することが苦手な生徒が多い。 ・家庭学習に取り組むことが苦手である。								
④ 目指す子ども像に達するための仮説	・全教職員で、目指す子ども像を共有し、「認知能力」と「非認知能力」を一体的に育む視点を持って授業改善や校内研修を行うことで「進んで学び、深く考える生徒」を育むことができるのではないかな。 ・「自己決定」の機会を意図的に設定し、多様な経験を通して「挑戦」することの意義を考えることで、目指す子ども像に近づくのではないかな。								

令和7年5月1日現在

※ 1～4 は、「研究計画書」として年度当初に記載する。

【 1 研究主題】

非認知能力と認知能力を一体的に育む授業づくり

【 2 研究組織体制】

(1) 中学校ブロックの組織体制		
ジョイント・アップ推進委員会（各校管理職・教務・研究主任） 学びのパスポートの分析等を生かした授業改善		
個別支援部会 個別支援プログラムによる 学習習慣と生活サイクルの確立	学習集団部会 児童生徒の主体的な取組による 非認知能力の育成	保小中連携部会 学びスタート調査を活用した 学びの土台となる力の検証
(2) 校内の組織体制		
学びのパスポート活用推進委員会（管理職・教務・研究主任） 学びのパスポートの分析等を生かした授業改善		
学習指導部 非認知能力と認知能力を一体的に 育む授業づくり	特別活動部 生徒の主体的な取組による 非認知能力の育成	総合的な学習 非認知能力を働かせる探求的な取組

【 3 具体的な取組内容】

実 施 月	研究内容、研究方法、成果の公開 等
4 月	
5 月	ジョイント・アップ授業研究会
6 月	
7 月	ジョイント・アップ夏季研修会
8 月	8 月上旬＊学びのパスポート結果返却、第 1 回分析・活用研修会
9 月	前期授業アンケート（学習指導部・非認知能力についても含む）
10 月	10 月上旬＊第 2 回分析・活用研修会
11 月	ジョイント・アップ授業研究会
12 月	
1 月	ジョイント・アップ授業研究会
2 月	
3 月	後期授業アンケート（学習指導部・非認知能力についても含む）

【 4 仮説及び成果を検証するための質問項目】

学年	質問番号	質問項目	概念	備考
全	3 1	わからない問題にであったとき、調べたり、さらに深く考えたりしている。	自己調整	
全	4 5	自分の考えたことよりも、相手の方がよい考えを持っていると感じたときは、相手の考えを取り入れるほうだ。	思考の柔軟性	
全	4 8	難しいことでもあきらめなければ乗り越えることができる。	目標に向けて取り組む姿勢	

※ 5～9 は、「実績報告書」として結果返却後の校内研修後に記載する。

* 5、6の分析項目は削除しています。

【7 分析結果を踏まえた指導改善、個に応じた具体的な手立て】

個に応じた具体的な指導・支援方法

A

- ・表層理解が高い

→「何で？」を大切にさせる発問を日常的に問う

B

- ・本人は頑張っている、正しい学習方法ができていると見込んでいるが、結果が伴わない

→①目標の明確化 ②その都度振り返り ③優先順位をつけさせる

C

- ・塾でやられているため、学力は高いが、質問の点数が低い。(特に自己調整、計画性)
授業に前向きに取り組めていない。

→フォーサイトを活用する：家庭学習の方法を聞き取り、相談を行う。塾や勉強に対するモチベーションのフォローを行う。

- ・教育相談を行う。

→キャパオーバーの様子が見とれたら、話を聞く機会を設ける。

集団としての具体的な指導・支援方法

○年

- ・授業のしかけとして、生徒が疑問を抱くような授業の展開を行う。

○年

- ・チャレンジ精神が高い

→ルーティーンタスクよりも、新しい取り組みを取り入れる

- ・自主性に乏しい

→①選択肢を与え、「自己決定」を促す

②簡単なタスクを与え、「達成感」を体感させる。

③答えをすぐに与えない

☆選択→達成→「待つ」姿勢を心がける

【8 仮説の修正】

【9 具体的な取組内容の修正】

※10、11 は、「実績報告書」として年度末に記載する。

【10 生徒の変容（普段の様子から）】

○年

- ・この声掛けが要因かどうかは定かではないが、定期テストの点数は上がっている。
- ・考える機会が増えて、授業での活動の様子が思考を働かせるようになってきた。
- ・生徒自身が考えることをし始めたのか、こちらが考えさせる発問を意識したからなのか、考える機会が増えたことは確か。

○年

具体的な支援①に関して

少しずつ、学習をしなければならぬと感じ始め、友人と一緒に点数の目標について話し始めた。スモールステップでは少しずつできるようになっている。月6テストも少しずつではあるが取り組み姿勢に変化が見れるが、成果はそこまで出てはいない。

具体的な支援②に関して

学習方法において、改善すべき点を指摘し、改善をしようとしているがなかなか改善はみられていない。

具体的な支援③に関して

その都度、優先すべき科目を明確にしながら、学習に取り組んでいる。教科や各科目の分野において、自己分析をし、取り組もうとはしている。

→各教科で目標を達成するための方略を本人と一緒に、しっかり理解し、行動に移せるように支援していく。

○年

フォーサイトのコメント欄でのやり取りや、日常的な声かけをすることで、塾や授業に対する不満などを教員に伝えることができた。そのことで、難しい問題を教員に聞きにきたり、自分から塾の不満を教員に話せるようになった。授業意欲に関しては大きな変化は見られないが、ストレスをため込まず、少しずつ吐き出せるようになったと感じる。

【11 3年次の研究構想】

- ・学びのパスポートの学年毎による集団と個人の分析方法と活用方法が明確になったため、次年度は、生徒が振り返る機会を設定する。また、それをキャリアパスポートに綴じ、自分の変容を確認できるようにする。
- ・非認知能力を働かせる授業づくりを公開授業を通して、学校全体でその意識を向上させたい。